

発刊	名称	ご質問・御意見等	対応・回答
全体にわたるもの		年報を拝見して、成果に「技術マニュアル発刊」とあり、入手を希望したが、自治体固有のマニュアルであり、公開出来ないとのことであった。機構内部では通用しても対外的には無理である。整合ある成果表現を求める。	同左
1996/3	プレキャストボックスカルバート 技術マニュアル(本編)	歩掛かりは1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートの掘付歩掛かりとあるが、分割して購入するよう部材の場合。この歩掛かりは適用できるのか	適用できません。各メーカーにお問い合わせください
1997/6	下水道マンホールポンプ施設技術マニュアル	マンホールポンプの貯留量について ①最低限の貯留量(時間)の基準 ②非常時(停電時)の貯留量の基準	マンホールポンプが故障した際には、予備機が動きます。停電時には、自家発電を現場に用意するのに必要な時間分だけ、上流側管きよの管内貯留を確保します。必要時間は停電実績、発電機保有場所との距離等により決定します(p39参照)。
1997/6	下水道マンホールポンプ施設技術マニュアル	圧送管路の空気注入を計画しています。空気注入設備(制御盤を含めた設備一式)を製造又は取り扱っているメーカーを探しています。お教え頂けないでしょうか。	申し訳ございませんが、本マニュアルの共同研究者では、現在、空気中入設備の取り扱いを行っている会社はございませんでした。下水道圧送管路研究会等にご相談ください。
1999/9	コンパクト型(破碎機仕様)汚水中継ポンプ施設技術マニュアル	海岸から150m離れた場所に建設予定である。高潮による浸水が懸念される。配電盤等のかさ上げ高さはどの程度か?基準等があれば教えてほしい。	明確なものは存じませんが、外水の侵入から配電盤類を守るためには一般論として、構内地盤高よりも高くする必要があります。雪国などでは+100cm上げる場合もあるようです。
1999/9	コンパクト型(破碎機仕様)汚水中継ポンプ施設技術マニュアル	P284に「シンダー厚」とあるが、シンダーとは何か?	床スラブから電気室の床の間にある、配線に使われるスペースです。シンダーとは「シンダーコンクリート」という軽量コンクリートの略称で、ここでは、フロアダクトの空間を埋める材料を指しています。なお、配線にはフロアダクトの他に、フリーアクセスとする方法もあります。
2007/3	マンホール浮上防止対策工法(アンカーウイング工法)技術マニュアル	アンカーウイング工法について、日進量についての問合せ	日進量: 1基/日 1号人孔, 打込み深さ15mとして。
2007/3	マンホール浮上防止対策工法(WIDEセフティパイプ工法)技術マニュアル	WIDEセフティパイプ工法の日進量を知りたい	事前調査の日進量として、マンホール深さにより次のようになります。 ~3m: 6基/日, 3~9m: 5基/日, 9~12m: 4基/日
2007/3	下水道における新エネルギー技術の導入・評価に関する技術資料	排出CO2の貨幣換算原単位を2000円/t-Cとしているが、設定根拠について知りたい。	現行の原単位は10600円/t-Cとされています。ただし、2000円という数字は安全側(過大評価側ではない)であるため、事業効果として見積もる際に不都合はありません。
2008/6	マンホール浮上防止対策工法(浮上防止マンホールフランジ工法)技術マニュアル	P183の『E-00-4重量体充てん工』は20㎡としているが理由は?	施工歩掛の人工数「人/100㎡」は、敷均し厚さ0.2mまでを対象としており、100㎡×0.2m=20㎡として計上しているためです。合計の後に20㎡で除して1㎡単位としています。
2008/6	マンホール浮上防止対策工法(浮上防止マンホールフランジ工法)技術マニュアル	P180の『D-00-3重量体充てん材料投入工』の「重量体充てん工」の単位が一式となっているが、これは1㎡の間違いか?	こちらは単位を『式』としているが、㎡の間違いです。㎡としてみていただき充てん材の必要量を計上してください。
2008/6	マンホール浮上防止対策工法(浮上防止マンホールフランジ工法)技術マニュアル	P182の『E-00-3重量体金枠取付工』の「トラックレーン賃料」の単位が『%』となっているが、これは『日』の間違いか?	『日』の間違いです。その下に掲載している『表-0-0重量体金枠取付工歩掛表』でも「トラックレーン賃料」は『日単位』となっています。
2010/12	プラスチック製雨水地下貯留浸透施設技術マニュアル	マニュアルに掲載されていない製品で、他の協会で認定している製品と機構で審査証明している製品の違いは何か	どちらの基準を用いても、事業者側で製品の仕様に基づいた設計を行って頂ければ、所定の性能を得ることができます。
2011/3	プレキャスト式雨水地下貯留施設マニュアル(改訂版)	耐震設計の記載量が少ないが、どうしたらいいのか。	本マニュアルの2011年版には、概要的な内容は記載されていますが、詳細につきましては、下水道協会の耐震対策指針を参照してください。
2011/3	プレキャスト式雨水地下貯留施設マニュアル(改訂版)	積算内容について、P51図に記載されている敷モルタル打設が、積算資料にない。	積算に敷モルタルは含まれていないので、別途積算の必要があります。
2011/3	プレキャスト式雨水地下貯留施設マニュアル(改訂版)	底版現場打ちコンクリートの配筋の考え方について	プレキャスト調整池の設計法は、応力照査型を基準としています。
2013/3	鋼板性消化タンク技術マニュアル	経済性、工期でのメリットが多く、コンクリート製の優位性がないように感じられるので、鋼板製タンクの注意点、留意すべき点があるのか?ポリスチレンフォームの耐用年数は、どのように考えているのか?	既設がコンクリート製であれば、運転管理面から敬遠されるかもしれません。また、塗装の施工に不備があると鋼板製であるがゆえに、錆び腐食性に対しては弱い面があります。ポリスチレンフォームは、化粧版を取り外せば比較的容易に取り換えが可能である。また、全体工事費に占める割合も小さいので、ポリスチレンフォームの耐用年数はあまり意識していない。
2013/3	鋼板性消化タンク技術マニュアル	構造の有効水深:直径を1:1にしている理由は?	規模別の標準設計をおこない1:1にしています。また、機械式攪拌機の性能から、1:1が適切としています。
2013/3	鋼板性消化タンク技術マニュアル	高温消化の適応性はあるのか?	今回の実証研究では、高温消化の検討しておりませんが、H23のB-DASH技術で担体投入高温消化の実証事業が行われ、国総研からガイドラインが発刊されています。この担体投入高温消化技術も鋼板製タンクなので、高温消化としての利用も可能であると考えます。
2013/3	回転ドラム型濃縮機技術マニュアル	「大容量処理プロセス」においては脱水工程も含めてトータルでの薬注使用量を低減するということが、脱水機種はどのようなものを想定しているか。	高効率型圧入式スクリュプレスを想定しています。
2013/3	回転ドラム型濃縮機技術マニュアル	実証試験(通常処理)では最適回転数は3~5rpm、大容量プロセスでは25rpmが最適となっている。最適性に影響を与えるものは何か。	汚泥の処理量、薬注の添加率およびドラムスクリーンの目幅が影響を与えています。
2013/3	回転ドラム型濃縮機技術マニュアル	処理量を変えた場合、洗浄水の投入汚泥に対する割合を変えたりする必要はあるのか。また、実証実験でのデータはあるか。	実証試験では汚泥処理量10m ³ /hに対して2m ³ /hとしています。実際はろ過抵抗式によるろ液計算を行い、必要水量を算出しているため、処理量の違いによって洗浄水量も変更する必要があります。
2013/3	回転ドラム型濃縮機技術マニュアル	大容量処理化にあたってスクリーンの目幅を変更について、どういうときに何mmという指針はあるのか。	目幅についてはメーカーのノウハウに関する部分であり、開示は控えさせていただきます。詳細はメーカーにお問い合わせください。
2013/3	エネルギー回収・汚泥減量化技術(レセルシステム)導入マニュアル	汚泥中のリン含有率が高い程、リン酸資源として活用する場合は有用であると思われるが、含有率等の知見があれば教えて欲しい。	汚泥性状の詳細なデータについては、取得していません。従来と比較した場合、汚泥を可溶化することで脱離液等が高濃度になると思われる。そのため汚泥中のリン含有率等は低くなるのではないかと考えられます。
2013/3	エネルギー回収・汚泥減量化技術(レセルシステム)導入マニュアル	リアクターの運転方式を反応温度165℃、圧力を0.6MPa(G)とした理由。	リアクターの温度を上げると、余分なエネルギーが増加します。また、温度を上げるとリアクター内で汚泥が燃焼する割合が増えます。そのためこのシステムでは温度を165℃としています。適切な有機物分解率および消化ガスの発生量が得られる運転としています。
2013/3	エネルギー回収・汚泥減量化技術(レセルシステム)導入マニュアル	可溶性設備導入後のH処理場では、焼却炉に消化ガスの補助燃料が使用されていないが、自然を想定しているのか。	H処理場では自然を想定している。流動焼却炉の温度を650℃から320℃に下げて検討を行っています。

発刊	名称	ご質問・御意見等	対応・回答
2013/3	エネルギー回収・汚泥減量化技術(レセルシ ステム)導入マニュアル	可溶化したことによる脱水後のろ液の着色状況等につ いて教えて欲しい。	詳細な数値は示せないが、脱水ろ液では、COD、BOD、T-Nについては上 昇がみられています。色度のデータはないが、再生水利用に関する技術の基準で ある修景用水の40度以下と聞いています。 放流水質ではCODは約2~3mg/l程度上昇している。
2013/3	エネルギー回収・汚泥減量化技術(レセルシ ステム)導入マニュアル	放流先のCOD濃度等の調節は、本技術で対応可能であ るか。	本技術で放流先の水質濃度の微調整を行うことは難しいと考えられます。返流水 の監視と反応タンクでのばっ気風量の調節で対応図る。